

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 平成29 (西暦) 2017	年度	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A型
④日本側拠点機関名 (和文)	同志社大学大学院脳科学研究科					
⑤研究交流課題名 (和文)	光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成					
⑥課題番号	JPJSCCA20170008					
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	脳科学研究科・教授・坂場武史					
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
東京大学						
国立研究開発法人理化学研究所						

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑩に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	4	6	1	6	0	17	0
協力機関・協力研究者	5	7	7	3	0	22	0
合計	9	13	8	9	0	39	0

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	675,100	外国旅費：新型コロナウイルス感染症拡大のため支出なし
	外国旅費※1	0	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	8,671,814	薬品材料費（実験用試薬、マウス、器具等）
	その他経費	229,086	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2		委託機関にて別途負担
	計	9,576,000	
業務委託手数料	957,600	研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。	
合計	10,533,600		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）。

該当なし					
③ 本 事 業 の 旅 費 に よ る 研 究 者	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）	675			
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）	日本→日本以外の渡航	0		
		日本以外→日本の渡航	0		
		日本以外→日本以外の渡航	0		
④ （ 単 位 ： 千 円 ） （ 千 円 未 満 切 捨 て ）	日本または相手国 →日本の渡航	（ 単 位 ： 千 円 ） （ 千 円 未 満 切 捨 て ）	左記のうち、 第三国所属の相手国側	日本または相手国 →日本の渡航	
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航		
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航		
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航		
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航		
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航		

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型で平成31年度以前の採択課題のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

総額（単位：千円）	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費) (単位：千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
28,586	3	9,529

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A型	型					
①共同研究（適宜、行を加除すること。）				現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ		
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓	
R1	光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成	ドイツ、フランス、アメリカ	○	○	○	○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
<p>R-1:</p> <p>特筆すべき成果：本年度は坂場—Sigrist（ドイツ）の共同研究で、海馬芽状線維のcAMP依存性シナプス可塑性メカニズムの研究をおこない、論文として発表した（Fukaya et al., 2021, <i>PNAS</i>）。これまで考えられたようにcAMP濃度上昇が伝達物質放出機構を修飾するのではなく、伝達物質放出部位付近の局所Ca流入量を増大させることを電気生理学と全反射蛍光顕微鏡を用いて見出した。また、海馬シナプス前終末の機能分子分布変化に関して系統的な解析を超解像光学顕微鏡（STED）を用いておこない、Caチャンネルクラスターが拡大することを見出した。中間評価で指摘された超解像顕微鏡の有効活用によって研究成果を出すことができた。高森、堀は、Brose等（ドイツ）との共同研究でシナプス小胞へのグルタミン酸充填機構をグルタミン酸アッセイ法などを用いて詳細に解析した（Nakakubo et al., 2020, <i>Cell Reports</i>、大学院生が関わった研究）。川口はMarty, Llano（フランス）らと機能的な意義が未解明なシナプス前終末IP3受容体の役割を明らかにした（Gomez et al., 2020, <i>PNAS</i>）。これ以外にも小脳シナプス前終末の高速なシナプス小胞ダイナミクスを全反射蛍光顕微鏡を用いて解析した研究（Miki et al., 2020, <i>PNAS</i>）など、研究成果が多かった年度であった。</p> <p>相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果：本事業では、ボトムアップ的な共同研究を通して若手を含めた研究活動の活性化を図っている。特にベルリンの研究者とは日本側の複数グループとの間で共同研究が進んでいる。来年度は同志社大学の若手研究者がベルリンに学振海外研究員枠で移籍する予定であり、相互関係の強化が進んでいる。これまでの実績をもとに、坂場とSigrist（ドイツ）の間での研究が科研費・国際共同研究強化Bに採択され、長期シナプス可塑性に関して本事業終了後も研究を深めることが可能になった。</p> <p>研究協力体制の構築状況等：本事業を用いて個別の共同研究を進展させるとともに、毎年1回のシンポジウムなどを通して神経シグナルの共通原理を議論する、という形が定着している。現在、坂場—Hauke, Sigrist, 高森—Brose, Hauke, 三木・川口—Marty, 御園生—Shigemotoの間での共同研究を実施継続している。</p> <p>共同研究のための旅費その他に関して；COVID-19パンデミックの影響で海外渡航は残念ながら不可能となり、感染状況を見ながら国内の共同研究（坂場—廣瀬）で旅費を使用した。ただし、共同研究体制の構築の手段としては、具体的には国内側、海外側とのskypeやメールのやりとりによって通常以上の議論の場を確保し、さらにオンラインのシンポジウムを2回開いたので、共同研究実施には支障はなかった。</p>								

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都府県・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S1	日本学術振興会研究拠点形成事業シンポジウム「光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成」	JSPS Core-to-core Program (A) Symposium "Nanobiology of neural plasticity based on optical nanoscopy"	日本 (zoom)	2020年12月9日 1日間
S2	日本学術振興会研究拠点形成事業「物性を軸とした神経可塑性研究拠点の形成 電気生理学ミニシンポジウム」	JSPS Core-to-core Program (A) "Nanobiology of neural plasticity based on optical nanoscopy: synaptic physiology minisymposium"	日本 (zoom)	2020年12月11日 1日間
<p>セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）</p> <p>毎年1回のシンポジウムをアメリカまたは日本で実施することを模索していたが、パンデミックにより残念ながらオンラインでの開催とし、その代わりに欧州時間、アメリカ時間に合わせて2つのシンポジウムをオンラインでおこなうことを試みた（変更理由）。S1は従来のシンポジウムと同じ形で、合計12名（日本 4名、ドイツ8名）からの演題があり、日米欧から合計80人程度の聴衆（フランス1名、アメリカ1名で日独で40名前後）があった。スピーカーは若手中心で、順にTakeshi Sakaba (Doshisha), Thomas Chater (RIKEN), Koichiro Takenaka (Doshisha), Tomofumi Yoshida (Doshisha), Tolga Soykan (FMP Berlin), Francisco José López-Murcia (MPI exp Med, Goettingen), Chad Grabner (Uni Goettingen), David Oestreicher (Uni Goettingen), Cordelia Imig (MPI exp Med, Goettingen, Uni. Copenhagen), Stephan Sigrist (FU Berlin), Erwin Neher (MPI biophys. Chemie, Goettingen), Andreas Ritzau-Jost (Uni. Leipzig)が登壇した。30分程度の発表に続き、特に時間を定めず自由に議論する形式とした。シンポジウムでは、シナプス伝達の分子細胞メカニズムを軸として、多岐にわたる研究が紹介された。生化学、細胞生物学、電気生理学、超解像光学顕微鏡を用いたイメージングなどのこれまでのアプローチに加え、電子顕微鏡による定量的なシナプス構造解析、シナプスと行動との因果関係をとる研究（Sigrist）に見られたように、シナプス研究が、世界的な研究の動向に沿って、分子レベルでは機能と構造との連関を定量的にとる方向へ、またシナプスから回路機能、行動へと架橋する形へと広がりを見せるようになった。このシンポジウムは前回の拠点形成事業から通算して9回目となり、小さくとも国際的で先端的な研究発表の場として定着してきたようである。同志社大からは大学院生の発表もあり、海外からの評価も高かった。また、本事業の共同研究の話し合いの場となった。</p> <p>S2では、12月9日の分とは別に、事業内の日米欧の電気生理学者グループが集まり、研究に関して、時間的な制約をかけず、より踏み込んだ内容を議論した。時差を考慮して、日本時間の12月11日0時から3時過ぎまで研究発表と議論をした（総勢30人程度、フランス2名、アメリカ1名で残り日独15名前後）。発表者はドイツ3名、フランス1名、アメリカ1名で、順にVan Tran, Abdelmoneim Eshra, Özge Demet Özçete, Henrike von Gersdorff, Erwin Neherであった。内容はシナプスや細胞レベルでの定量的な生理学であるが、最近、事業内の同業研究者間でコンセンサスが得られていない「シナプス小胞プール」といわれる概念に関して重点的に意見交換をおこなった。現状では対面での国際シンポジウムが不可能な中、zoomで海外の研究者と深い議論ができたことは得難い機会であった。ここでの議論をベースに坂場が総説を執筆している。</p>				
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）				
該当なし				
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）				
該当なし				

4. 研究交流状況

事業の型 A型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とする。適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名 (和文)	ドイツ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ベルリン自由大学、Neurocure、FMP 英文：Free University Berlin、Neurocure、FMP	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Biology, Chemistry, Pharmacy・Professor・HAUCKE Volker
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：ゲッティンゲン大学 英文：University of Goettingen GGNB	
和文：ライプチヒ大学 英文：University of Leipzig	

⑤参加研究者数内訳 (重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	2	0	0	4	
協力機関・協力研究者	5	1	0	0	0	6	
合計	7	1	2	0	0	10	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考： 日本側研究交流経費		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		1					
(1)日本側研究者の相手国内滞在費		－		0			
(2)相手国側研究者の国際航空運賃		×		0			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費		×		0			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費		－		0			
(5)相手国側研究者の研究経費		◎	Leipzig Institute. Free University Berlin, Max Planck Society	Basic grant (core funding)	17,926	2021/2/22	Euro 128
(6)相手国開催のセミナー開催経費		－		0			
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		×	合計		17,926		

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名(和文)	フランス
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: パリ第5大学 英文: University Paris 5	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Biomedicine - CNRS・CNRS researcher・MARTY Alain
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	2	1	0	0	6	
協力機関・協力研究者	2	0	0	0	0	2	オーストリア(1)
合計	5	2	1	0	0	8	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 9,576			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-			0			
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	X			0			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	X			0			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-			0			
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	University Paris5	basic grant	9,603	2021/2/22	Euro	128
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-			0			
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	X	合計		9,603			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名(和文)	アメリカ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: メリーランド大学 英文: University of Maryland	
③コーディネーター所属 局名・職名・氏名 (英文)	School of Medicine, Department of Neuroscience・Associate Professor・BLANPIED Thomas
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: オレゴン健康科学大学 英文: Oregon Health & Science University (OHSU)	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	1	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	2	0	0	0	0	2	
合計	3	1	0	0	0	4	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 9,576			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-			0			
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	X			0			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	X			0			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-			0			
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	NIH/NIMH	R01	1,057	2021/2/22	US dollar	106
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-			0			
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		1,057			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。